

成田空港と羽田空港の乗継等に関する アンケート調査結果

アンケート調査の目的

成田空港と羽田空港の一体的活用の具体的施策を導き出すため、成田空港 - 羽田空港の乗継の実態、両空港間の乗継に対する潜在ニーズ等を把握することを目的とする。

アンケート調査の概要

アンケート実施時期： 2009年3月
アンケート実施方法： インターネットによるモニタ調査で、我が国の人口比に応じて配信。
サンプル獲得条件： 過去2年以内に海外渡航をした方
成田空港と羽田空港の乗継実態とその潜在需要調査のため、関東地方を除く居住者を対象とする。

サンプル数(回答者数): 5003人

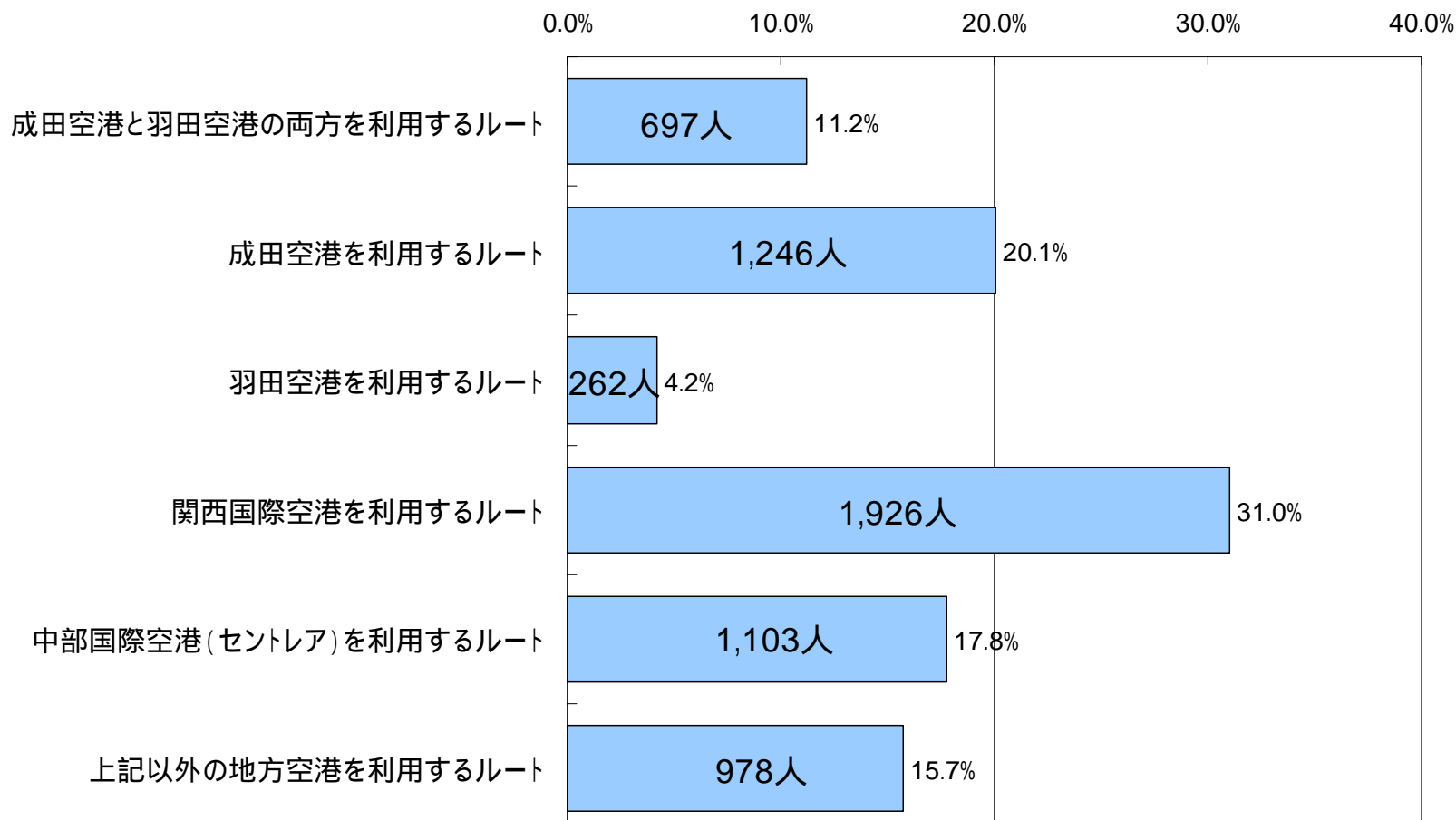
サンプル属性:

地方別： 北海道(6.2%)、東北(8.5%)、北陸・甲信越(9.5%)、東海(21.4%)、近畿(27.6%)、中国(7.7%)、四国(4.2%)、九州・沖縄(15.0%)
男女比： 男性(48.3%)、女性(51.7%)
年齢別： 10代(2.2%)、20代(20.8%)、30代(38.1%)、40代(22%)、50代(11.8%)、60代(5.1%)
職業別： 公務員(5.0%)、経営者・役員(3.0%)、会社員(45.3%)、自営業(6%)、自由業(2.3%)、専業主婦(16.6%)、パート/アルバイト(8.2%)、学生(6.8%)、その他(6.7%)

海外へ渡航した時に利用したルート（複数回答可 N=6,212人）

ルート別の調査内容であるため、ルート別の利用者数の合計を母集団としている。

あなたは、過去2年以内に海外へ行く際に、以下のどのルートを利用しましたか。
過去2年以内に何度も海外へ行った方は、全てのケースをお答えください。



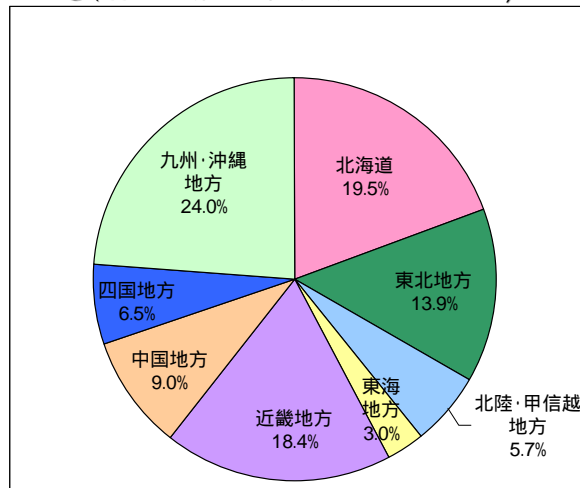
■関東地方を除いた調査なので、関空を利用するルート()が最も多く、31%を占める。次位は成田(20.1%)、中部(17.8%)である。

■羽田 - 成田乗継ぎを利用するルート()は11.2%(697人)。

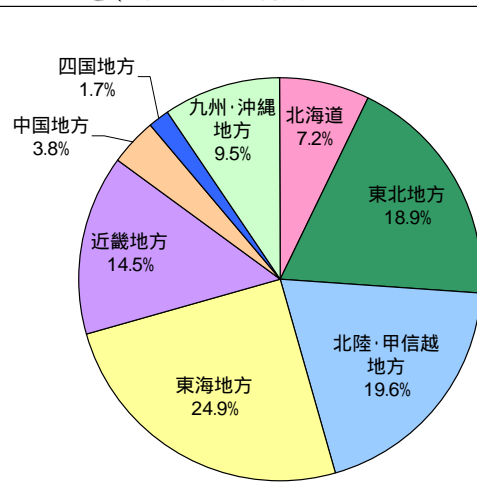
■上記以外の地方空港を利用するルート()は15.7%(978人)。

居住地別ルート利用状況（複数回答可 N=6,212人）

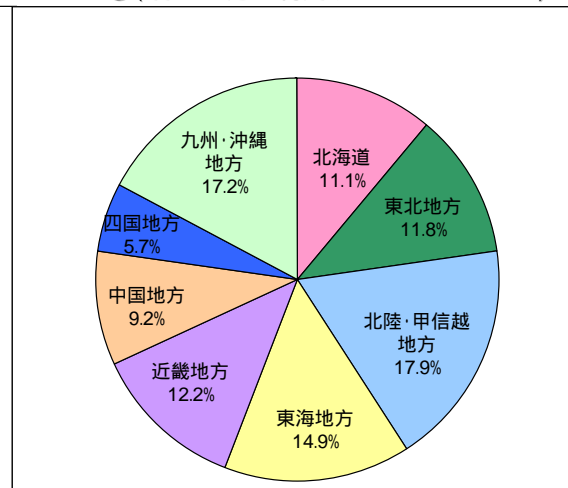
ルート①(羽田ー成田を乗り継ぐルート N=697)



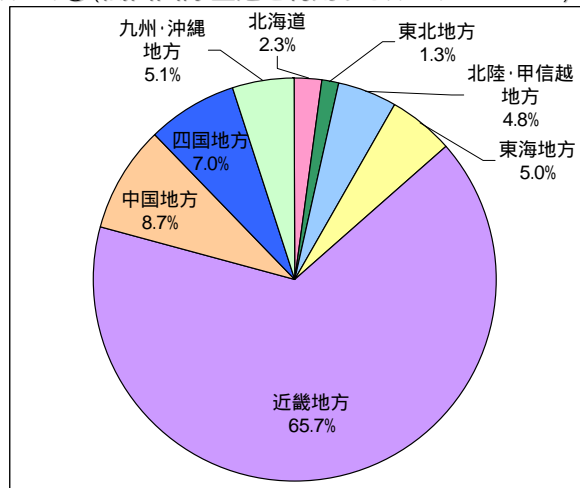
ルート②(成田空港を利用するルート N=1246)



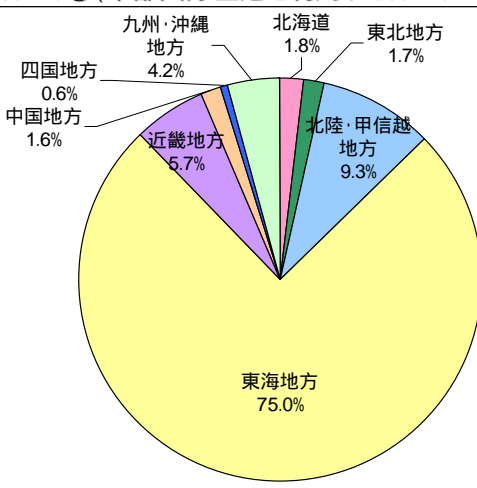
ルート③(羽田空港を利用するルート N=262)



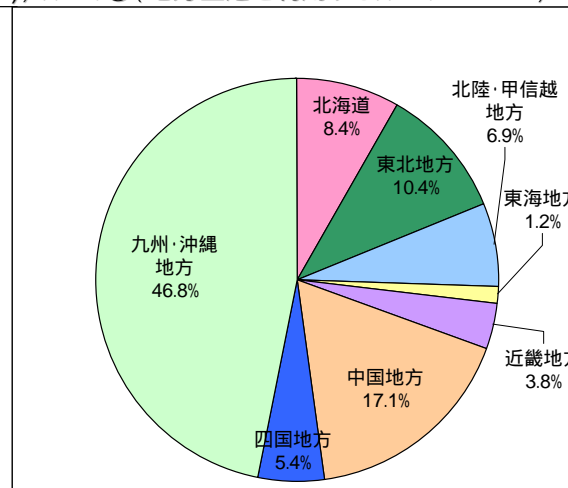
ルート④(関西国際空港を利用するルート N=1926)



ルート⑤(中部国際空港を利用するルート N=1103)

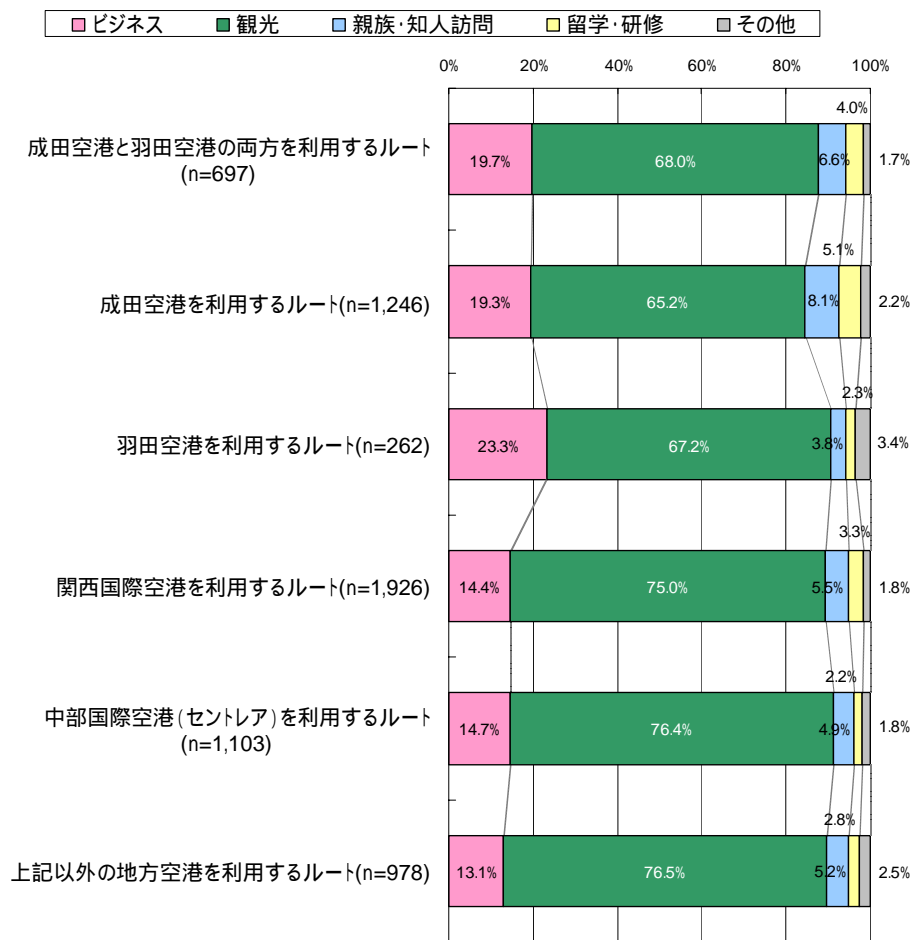


ルート⑥(地方空港を利用するルート N=978)

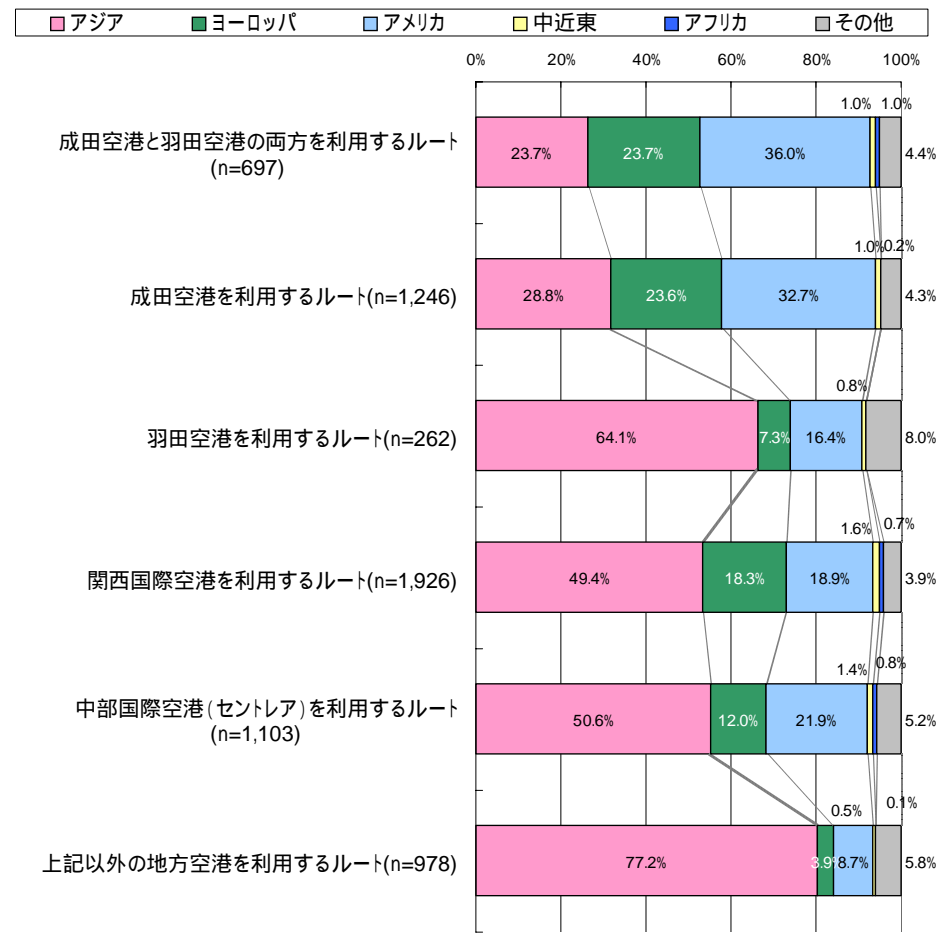


- ルート①、②、③の分布図より、成田空港と羽田空港は、全国の居住者に利用されていることが窺える。
- ルート⑥の成田・羽田・関空・中部以外の地方空港を利用するルートは、九州・沖縄地方の居住者が半数近く(46.8%)を占める。

渡航目的(ルート別) (N=6,212人)



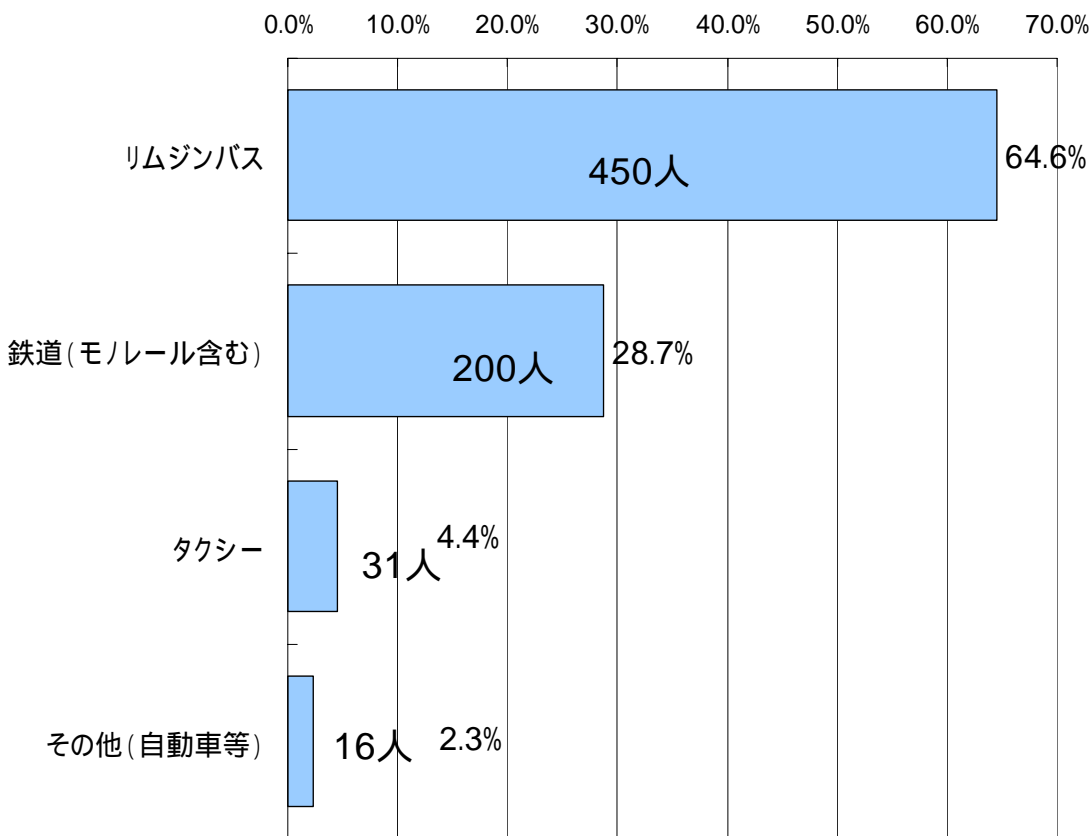
最終目的地(ルート別) (N=6,212人)



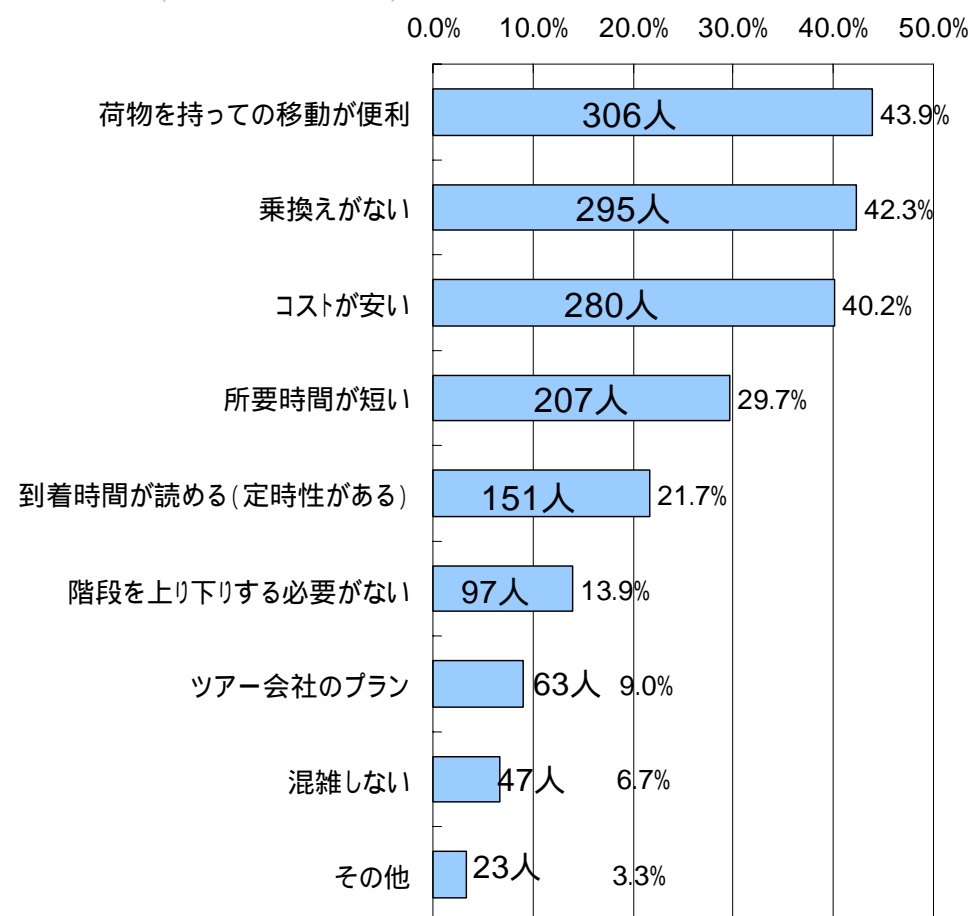
- 渡航目的では、全体的に「観光」が多い。特に関空、中部、地方空港を利用するルートではその比率が高い。
ビジネス利用は特定の人だけが何度も利用するので、人数を母数とすると割合が低くなる傾向がある。また、同じルートを何度も利用した人は直近のケースについて回答していることから、正月休暇を利用した観光旅行が影響している可能性があることに留意する必要がある。
- 最終目的地をみると、成田空港(羽田経由含むルート と)は、全方面に向けての海外渡航に利用されている。
- 羽田、関空、中部は、アジア方面への利用が多く、特に地方空港を利用するルートでは、その比率が77.2%を占める。

A. ルート 羽田ー成田間を乗継いだ人に対する質問 (N=697人)

QA-1 羽田と成田の乗継の際の交通手段(単一回答)



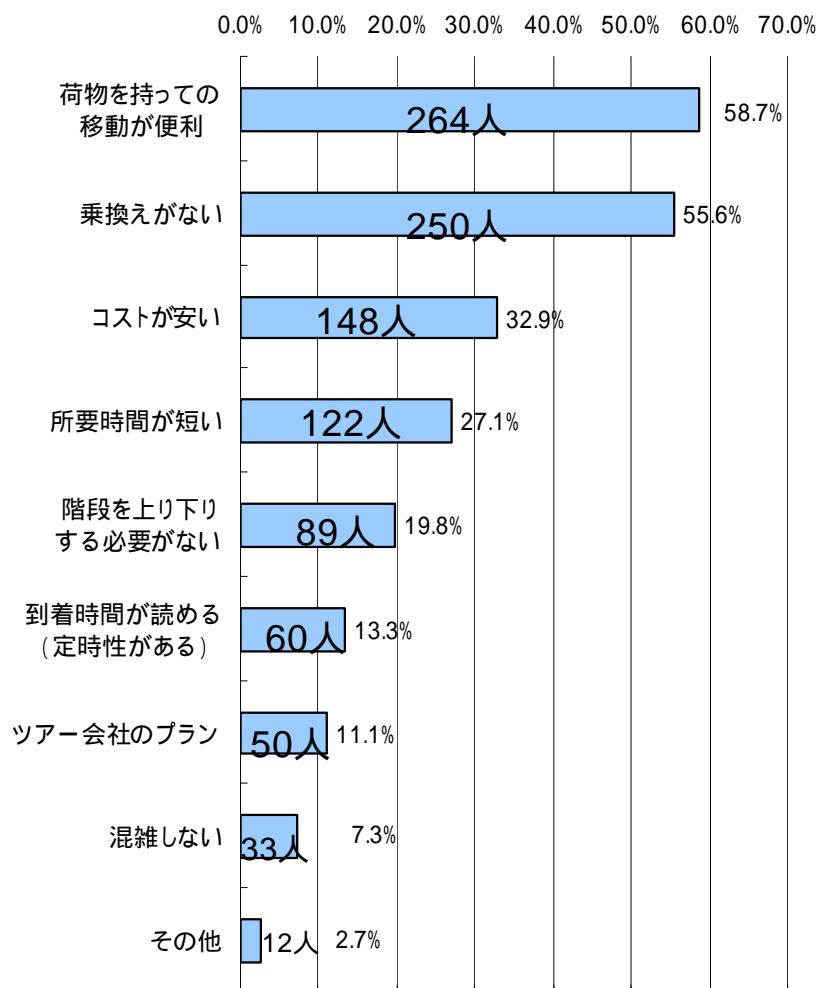
QA-2 その交通手段を利用した主な理由(複数回答可)



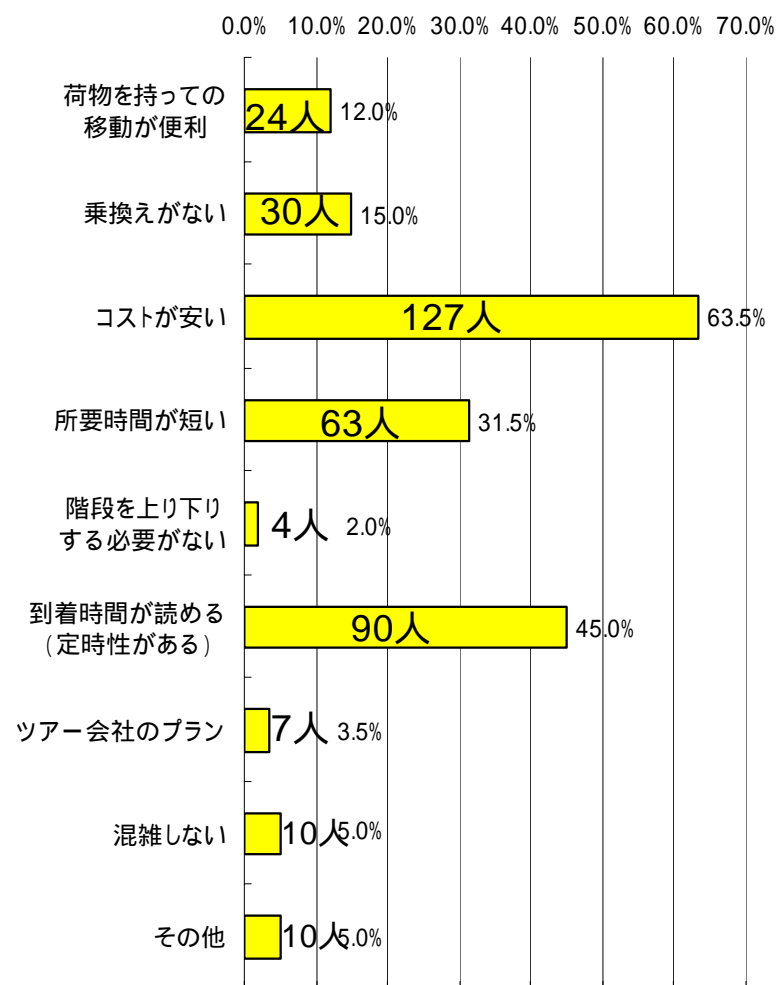
- 羽田ー成田間を乗継いだ697人中450人(64.6%)がリムジンバスを利用している。次に多いのが鉄道(モノレール含む)で、200人(28.7%)である。
- その交通手段を利用した主な理由として、697人中306人(43.9%)の人が「荷物を持っての移動が便利」と回答している。また、「乗換えがない」、「コストが安い」と答えた人も40%以上を占める。

QA-2(詳細) 交通手段別の主な理由

リムジンバス (N=450人、複数回答可)

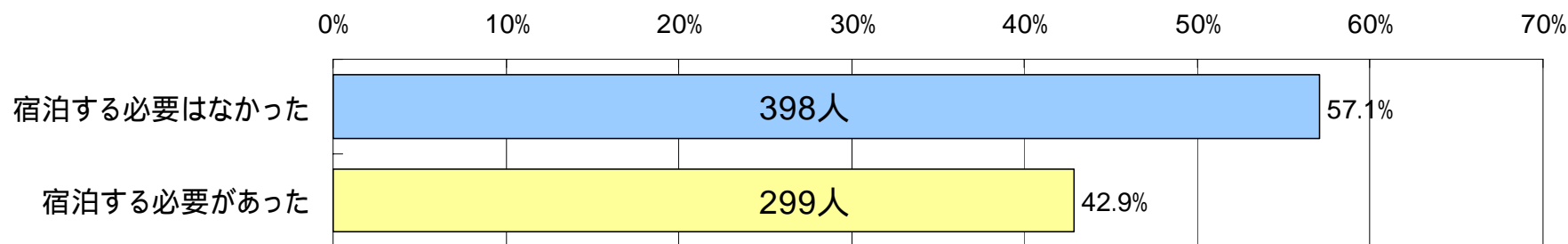


鉄道(モノレール含む)
(N=200人、複数回答可)

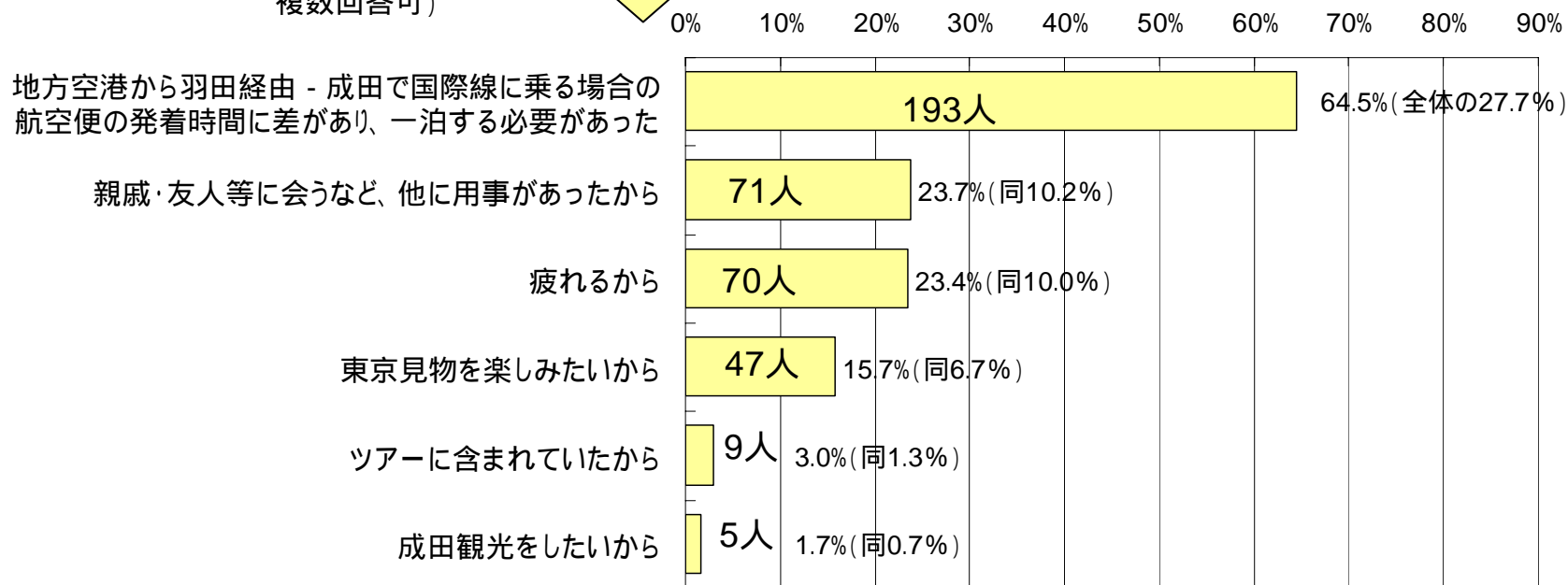


- リムジンバスの利用者(450人)のうち、半数以上の人々が主な理由として「荷物を持っての移動が便利」(58.7%)、「乗換えがない」(55.6%)を挙げている。
- 鉄道の利用者(200人)では、主な理由は「コストが安い」(63.5%)と、「到着時間が読める(定時性がある)」(45.0%)であった。

QA-3 羽田と成田の乗継の際に、都内または成田空港近隣などで宿泊する必要がありましたか？
(N=697人)

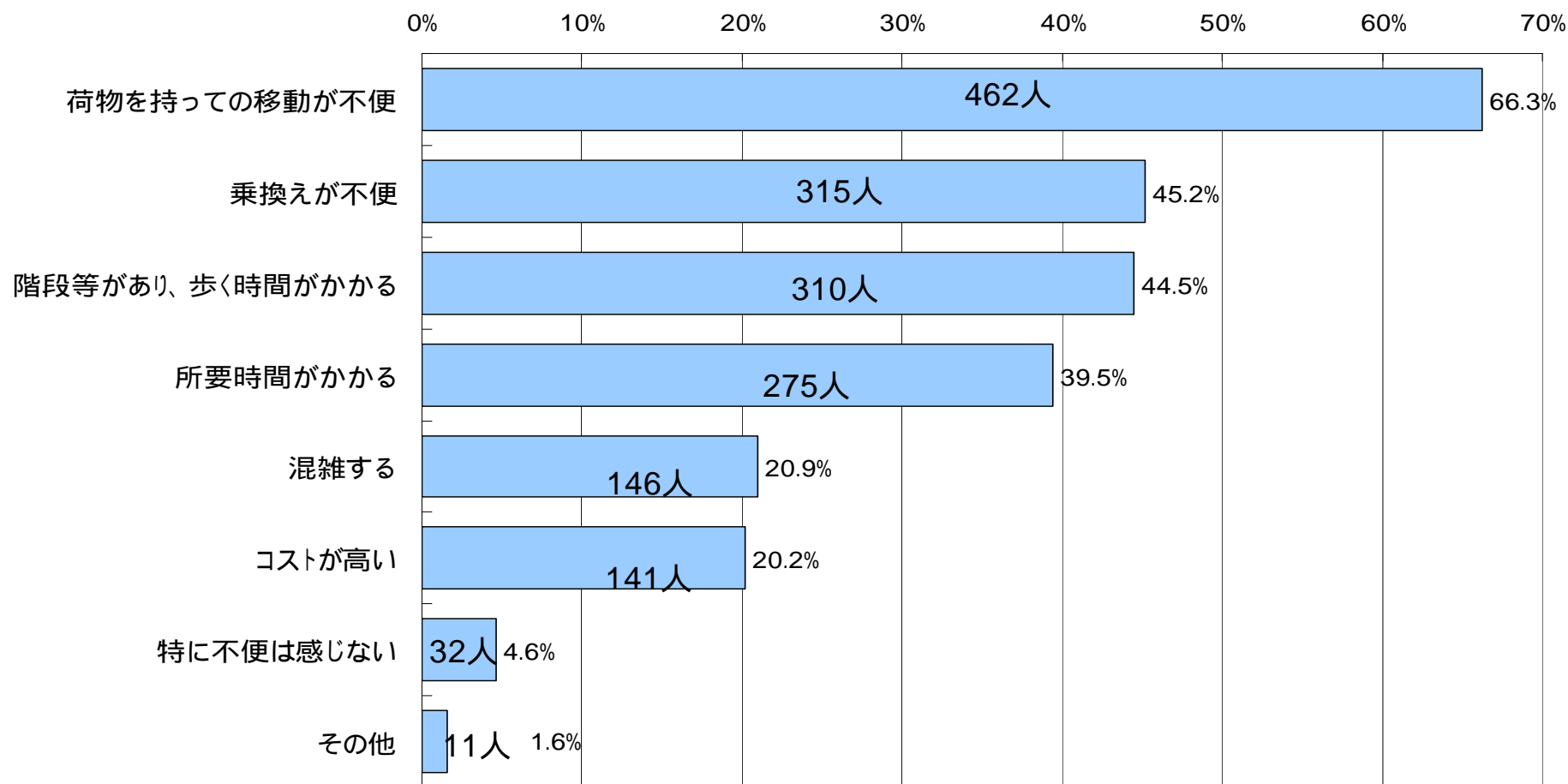


(「宿泊する必要があった」の理由
複数回答可)



■ 羽田 - 成田間を乗り継いだ人の中で、宿泊する必要があった場合は4割程度あるが、そのうち64.5%の人が「航空便の乗り継ぎのため宿泊する必要があった」と回答している。

QA-4 羽田と成田の乗継の際に鉄道を利用することを考えた場合、不便な点は次のうちどれですか？
(N=697人、複数回答可)

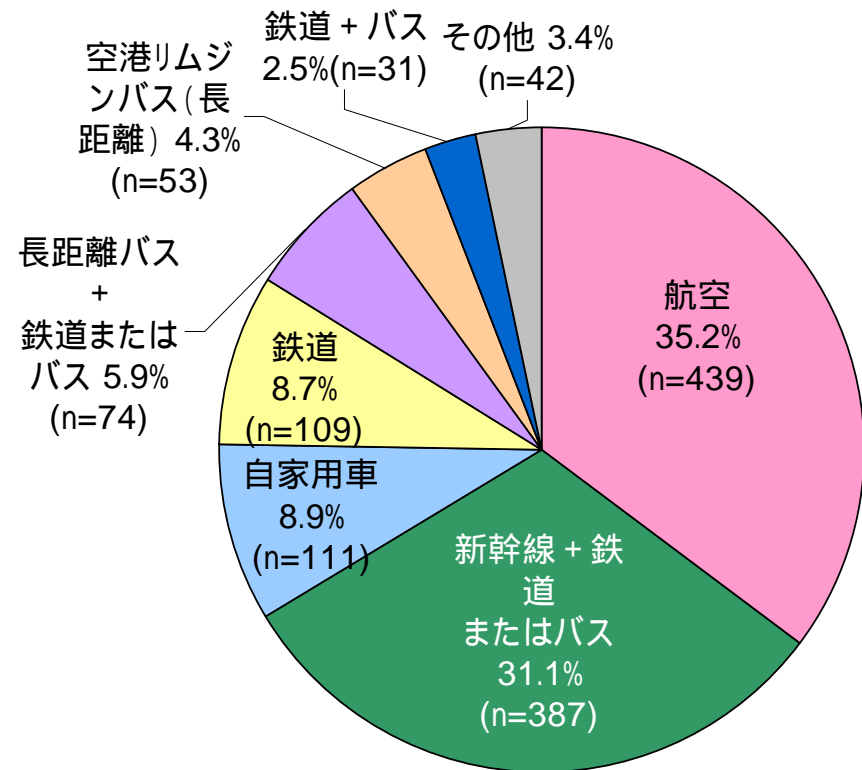


- 697人中462人(66.3%)の人が「荷物を持っての移動」を不便と感じている。「乗換え」、「階段等があり、歩く時間がかかる」という点に不便を感じる人の割合も40%を超えた。
- その他の主な意見は、「鉄道への乗換え案内がわかりにくい」や、「直通列車が少ない」等であった。

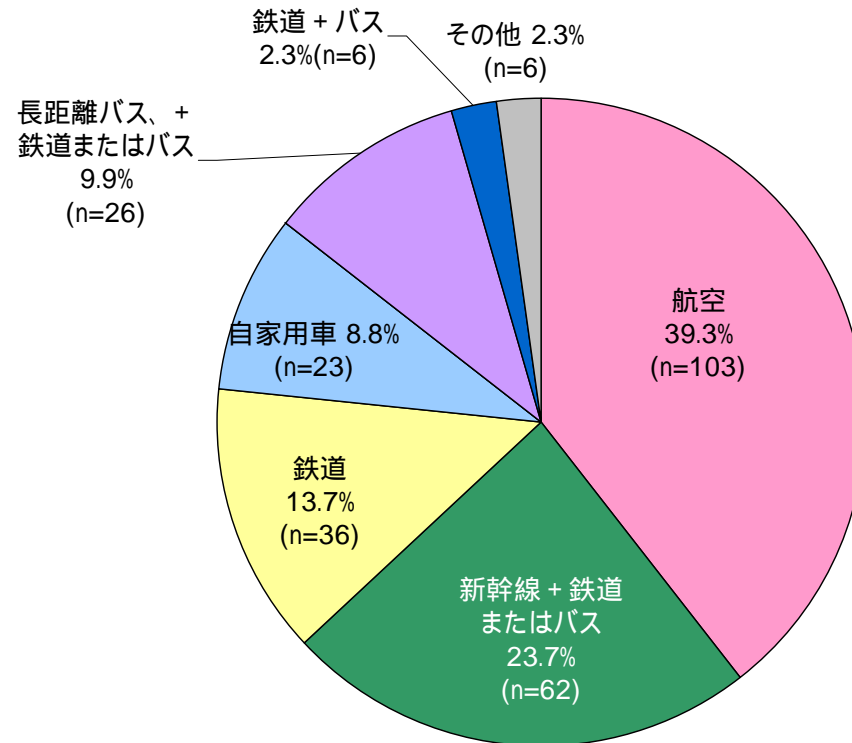
B. ルート 成田空港を利用する人(羽田経由しない)とルート 羽田空港を利用する人への質問

QB-1 成田または羽田までの交通手段は何でしたか？

成田空港を利用するルート(N=1,246人)



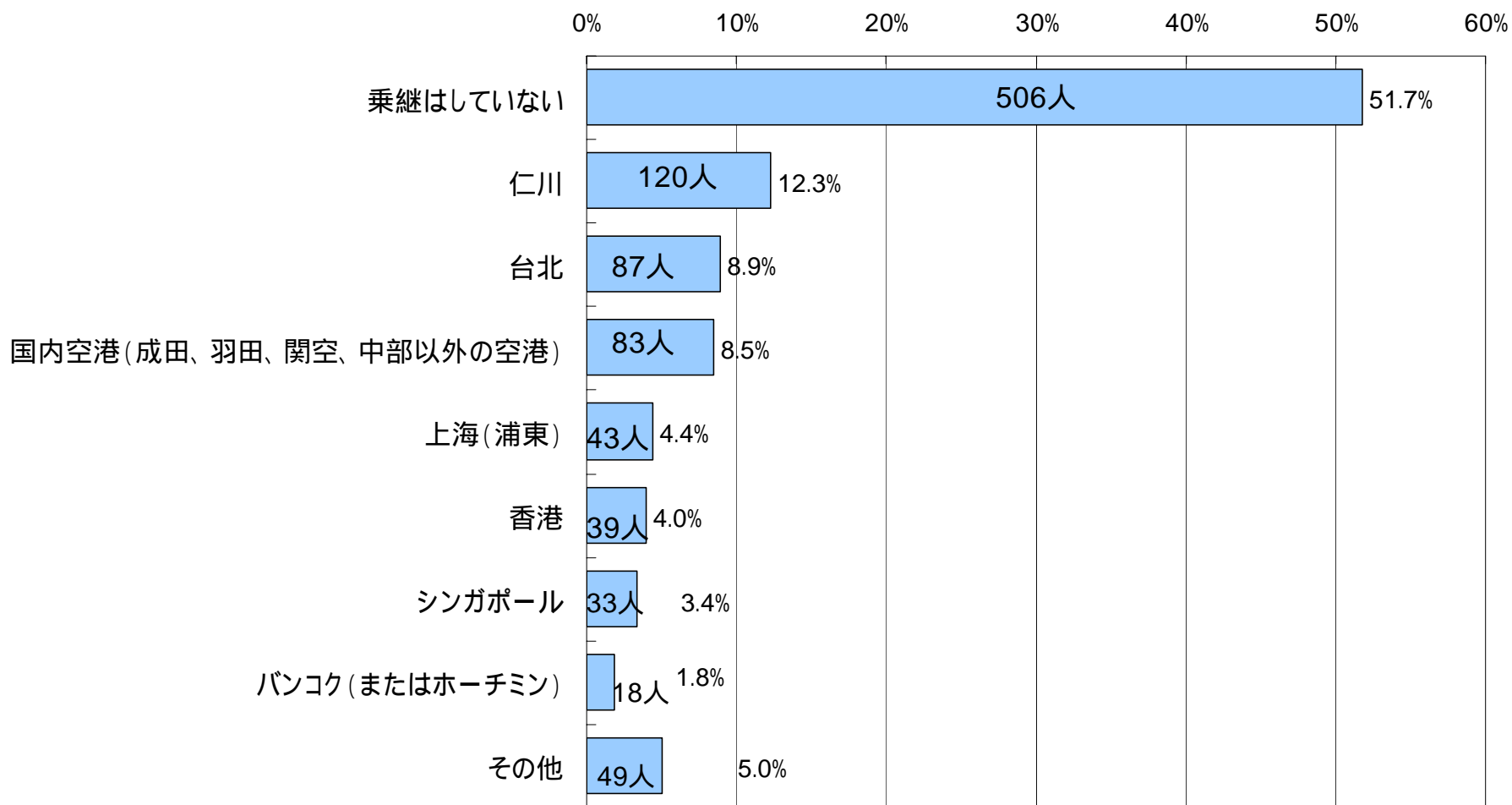
羽田空港を利用するルート(N=262人)



- 羽田を経由せず成田空港を利用した1,246人(ルート)では、成田まで航空で直接乗り入れる人(内際乗継)が439人(35.2%)と最も多く、新幹線と鉄道やバスを乗り継いで来る人が387人(33.1%)と次に多い。
- 羽田空港から海外へ渡航した262人(ルート)では、羽田へ航空で直接乗り入れる人(内際乗継)が103人(39.3%)、新幹線と鉄道またはバスを乗り継ぐ人は62人(23.7%)と次に多い。

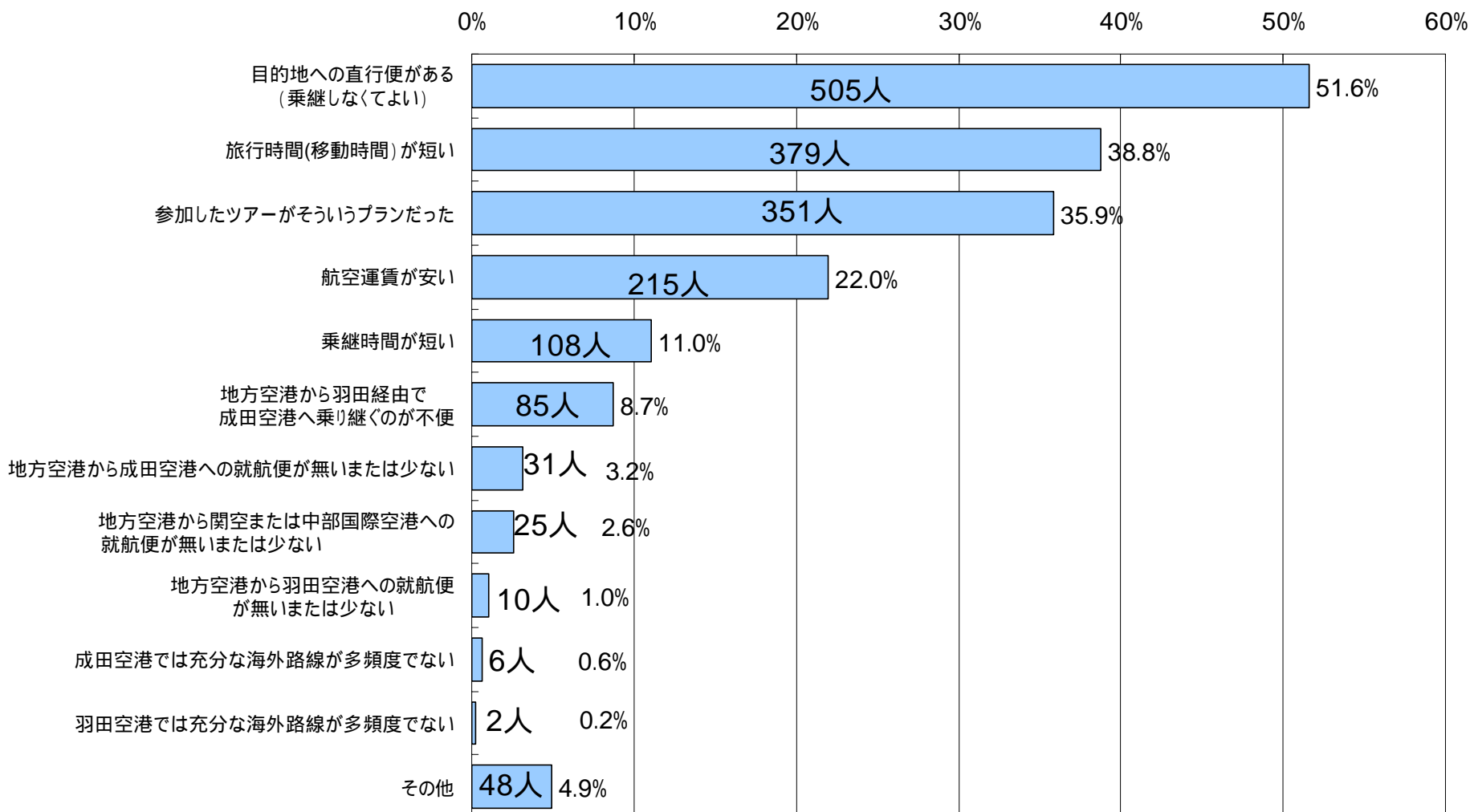
C. ルート 成田、羽田、関空、中部以外の国内空港から海外へ渡航した人に対する質問(N=978人)

QC-1 その経路(地方空港から海外へ行く経路)を利用した際の最初の乗継空港は次のうちどれですか？



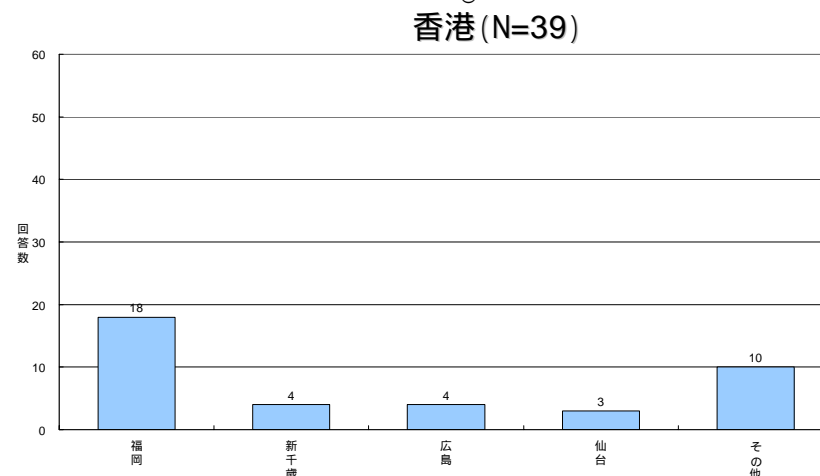
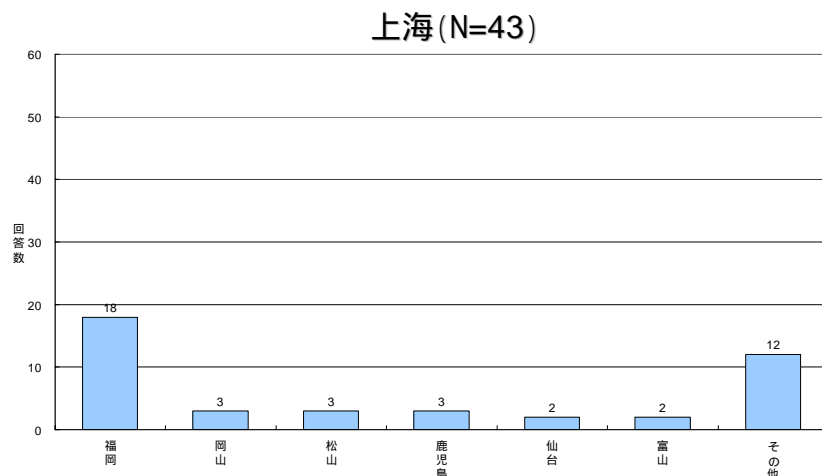
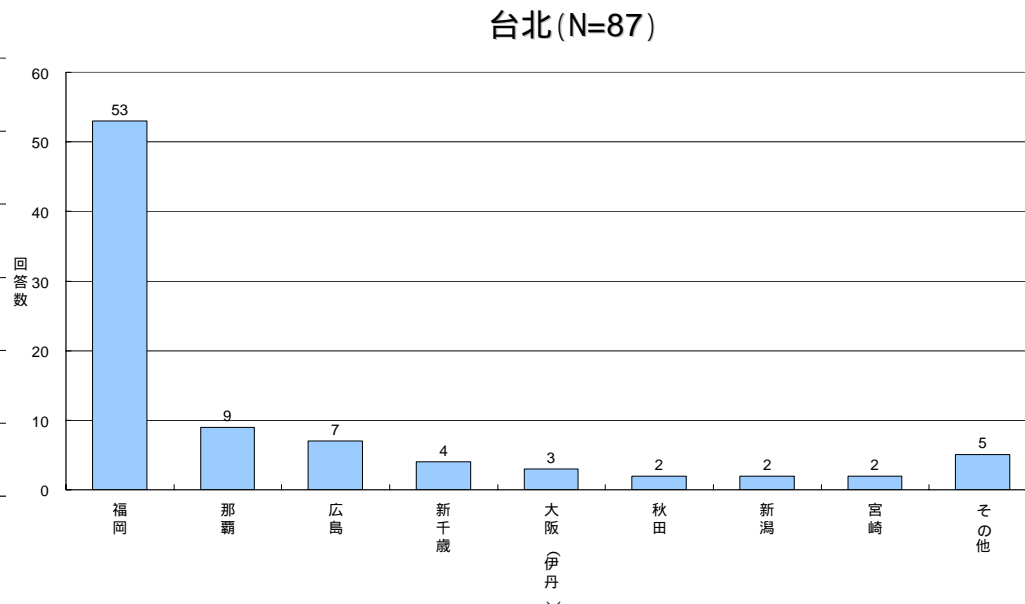
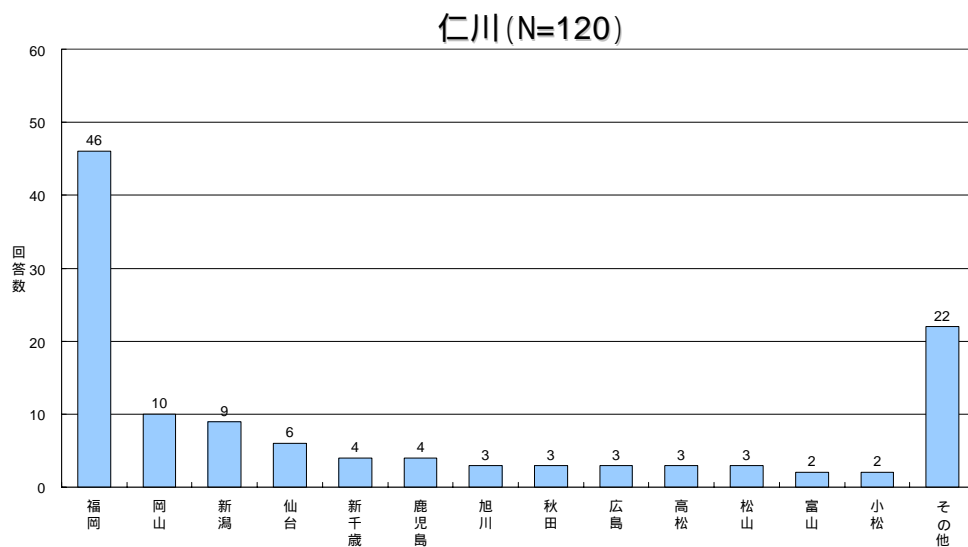
- 「乗継はしていない」、つまり最終目的地への直行便であった人が、過半数(51.7%)を占める。
- 乗継をした場合では、利用者数の多い順に、仁川、台北、国内空港、上海、香港となっている。

QC-2 その経路(地方空港から海外へ行く経路)を利用した理由は次のうちどれですか？ (N=978人、複数回答可)



■ 地方空港から海外へ渡航するルートでは、主な理由として「目的地への直行便がある」が最も多く、過半数(51.6%)を占める。次いで「旅行時間(移動時間)が短い」、「参加ツアーがそういうプランだった」という回答が続いている。なお、「参加したツアーがそういうプランだった」と単一回答した人は、351人中177人であり、回答者数978人に対する割合は18.1%であることから、ルートを選択する際に、ツアー会社の企画に依る人も少なくない。

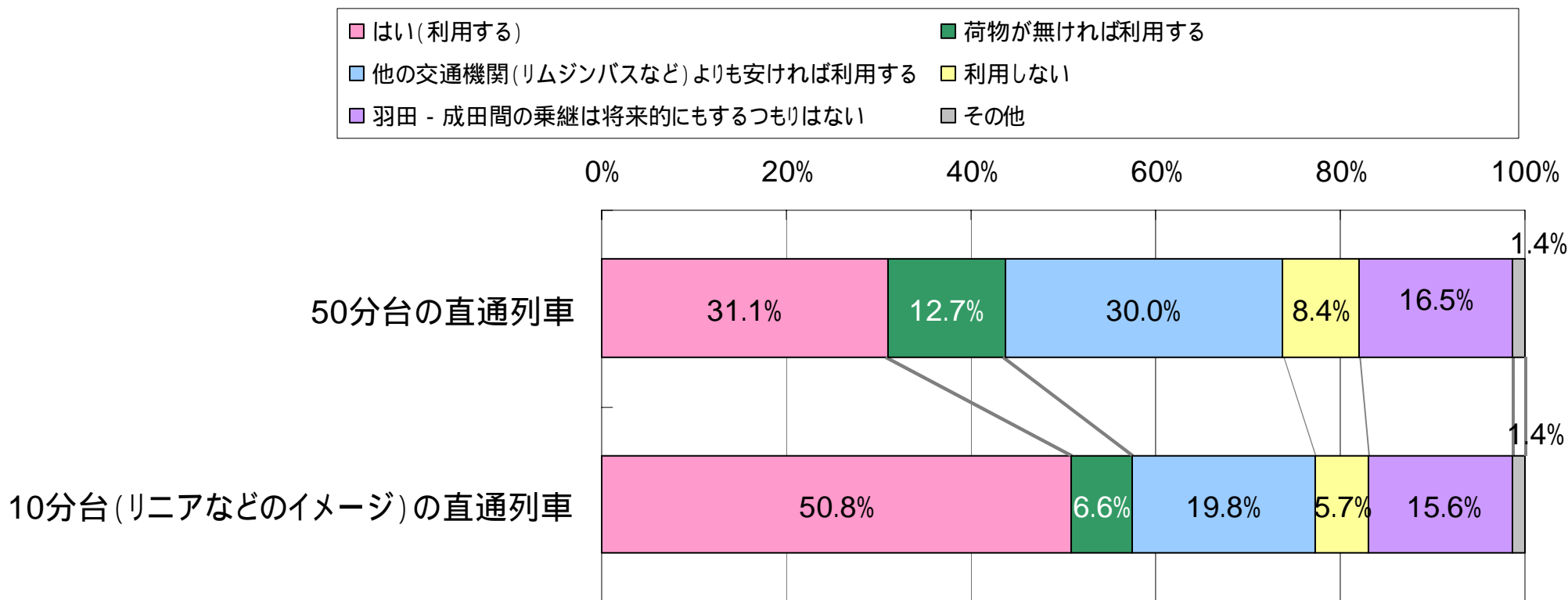
QC-3 乗継空港別 最初の出発空港



- どの海外空港での乗り継ぎの場合でも、最初の国内での出発空港は福岡空港が一番多い。
- 乗継空港で最も利用されている仁川では、福岡のほか、岡山、新潟、仙台等が利用されている。
上図の台北乗継の最初の出発空港とされる大阪(伊丹)、秋田、新潟の各空港と、香港乗継の広島と仙台の各空港については、台北または香港への就航便が無いため、他の国内空港(成田、羽田、関空、中部以外)で乗り継いでから、再度台北または香港で乗り継いだものと推測される。

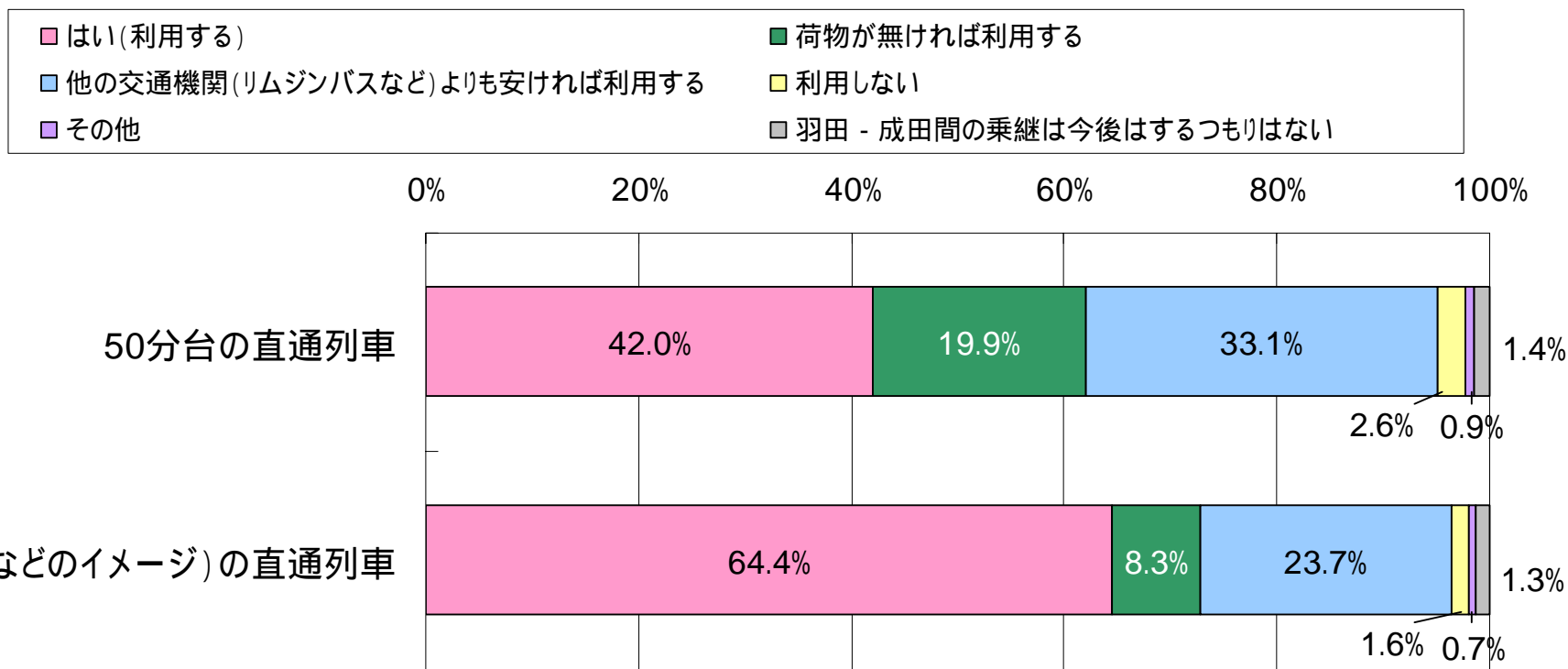
D. 全員に対する質問 (N=5,003人)

QD-1 もし、羽田と成田を結ぶ以下のような直通列車が運行されれば、
鉄道を優先的に利用したいと思いますか？それぞれについてお答えください。



- 50分台の直通列車では、「利用する」が約31.1%。「他の交通機関よりも安ければ利用する」は30.0%、「荷物が無ければ利用する」は12.7%であり、運賃水準等の条件を整えれば、利用したいと考える人は7割以上(73.8%)に達する。
- 10分台(リニアなどのイメージ)の直通列車では、「利用する」が約50.8%。なお、「荷物が無ければ利用する」「他の交通機関よりも安ければ利用する」という回答を含めると、8割近く(77.2%)の人が利用したいと回答している。
- 条件が整えば、特に運賃水準次第では利用する人は多いと想定される。

QD-1(詳細):ルート 羽田ー成田間を乗継いだ人の回答(N=697人)

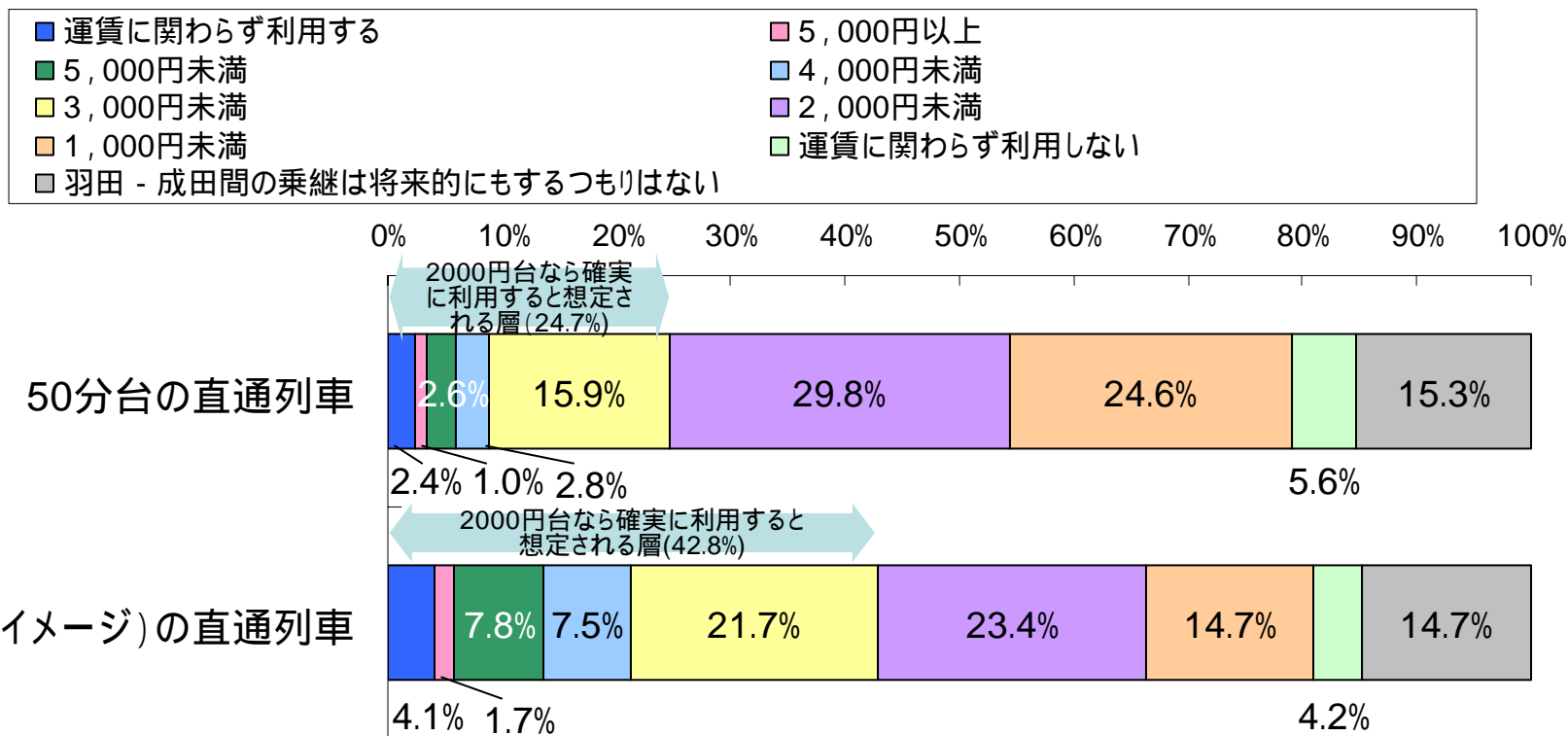


■ 実際に羽田ー成田間を乗継いだ人(697人)の回答では、50分台の直通列車で「利用する」が42.0%、「荷物が無ければ利用する」が19.9%、「他の交通機関よりも安ければ利用する」が33.1%である。条件が整えば、95%の人が利用したいと回答している。

QD-2 運賃がいくらなら利用したいと思いますか？ (N=5,003人)

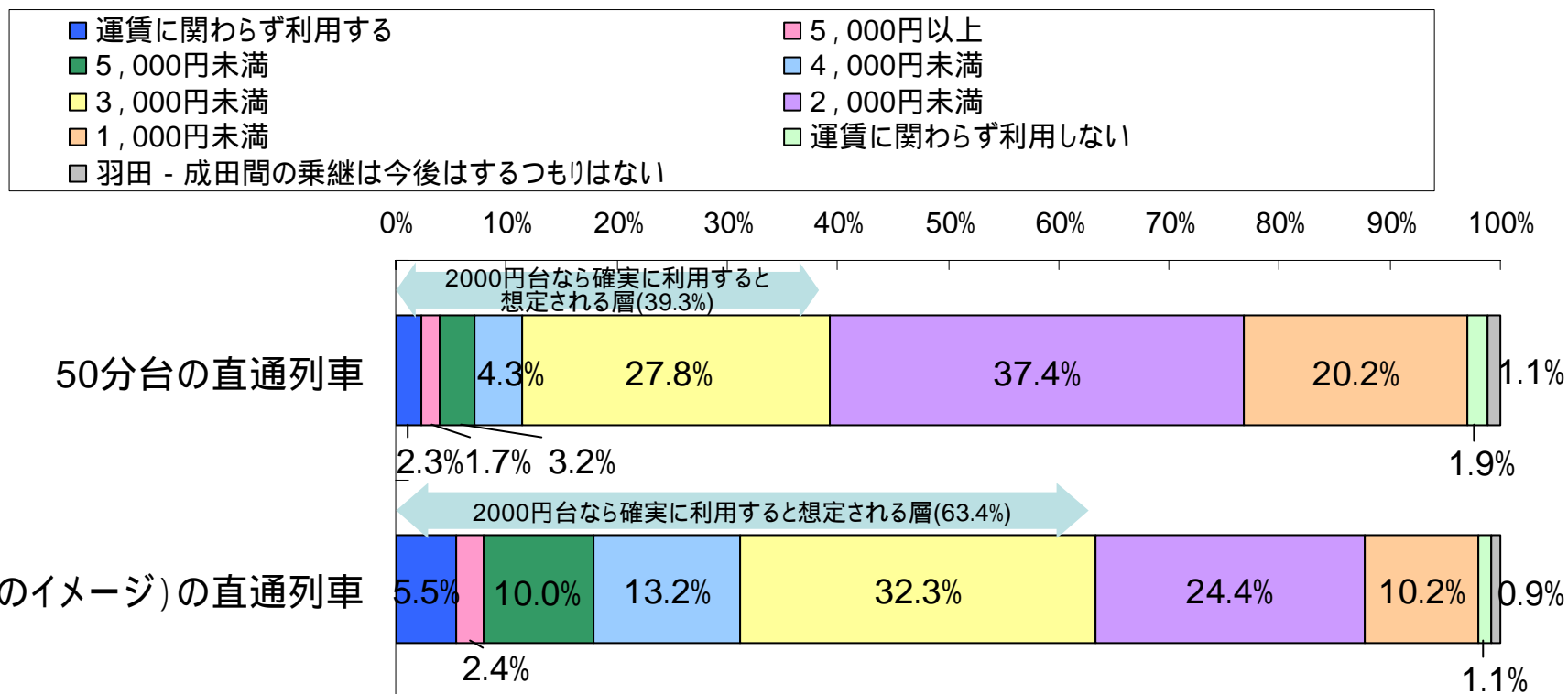
現在の羽田 - 成田間の移動手段と運賃

- ・直通リムジンバス: 3,000円 約75分
- ・羽田空港 京急電鉄 都営地下鉄浅草線 京成電鉄 成田空港: 1,560円 約2時間
- ・羽田空港 京急電鉄 JR山手線 京成スカイライナー 成田空港: 2,480円
- ・羽田空港 モノレール JR山手線 JR成田エクスプレス 成田空港: 3,580円



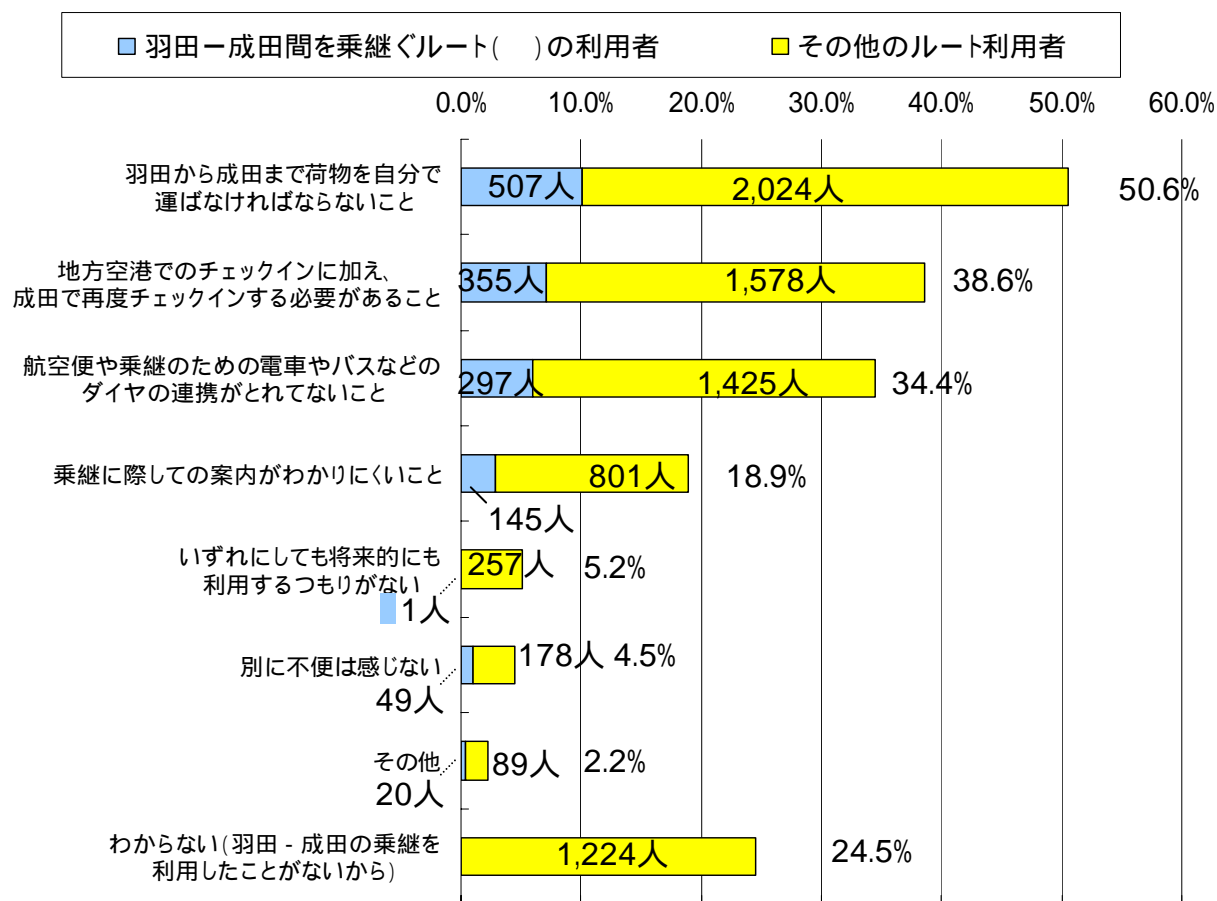
- 運賃水準に対する要求は全体的に厳しい。
- 50分台の直通列車では、1000円台の価格設定ならば過半数 (54.5%) の人が利用したいと回答している。2000円以上では利用したいとする人は最大でも24.7%に留まる。10分台の直通列車では、運賃水準が50分台に比べ相対的に高く、2000円以上で利用したいとする人は最大で42.8%になる。

QD-2(詳細) ルート 羽田-成田間を乗継いだ人の回答(N=697人)



- 実際に羽田-成田間の乗継を利用した人の回答では、運賃水準に対する許容限度は高く現れている。
- 50分台の直通列車では、1000円台の価格設定ならば8割弱(76.7%)の人が利用したいと回答している。しかし、2000円以上では利用したいとする人は最大でも約4割(39.3%)に留まる。10分台の直通列車では、運賃水準が50分台に比べ相対的に高く、2000円以上で利用したいとする人は最大で63.4%になる。
- 乗車時間が短縮され利便性が高まったとしても、時間短縮効果に対する対価はそれほど高くなく、利用者は空港アクセスの利便性は求めても、コスト増に対する抵抗があるのが窺える。

QD-3 交通アクセス以外で、羽田と成田間の乗継について(あるいは乗り継ぐことを想定した場合に)、不便だと感じることはないは改善して欲しいと思うことは何ですか？(N=5003人、複数回答可)



- 回答者数(5003人)の約半数(50.6%)の人が「荷物を自分で運ばなければならないこと」が不便だと感じている。
- 次いで「地方空港でのチェックインに加え、成田空港で再度チェックインする必要があること」が38.6%、「航空便や乗継のための電車やバスなどのダイヤの連携がとれてないこと」が34.4%を占める。また、「乗継に際しての案内がわかりにくい」と回答した人も18.9%いた。
- その他の主な回答では、「時間がかかること」、「コストが高いこと」、「面倒であること」、「宿泊が必要になること」等であった。